平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1. めざす学校像

私たちの学校は、YMCAの正章に掲げる Spirit(精神)・Mind(知性)・Body(身体)のバランスを保ち、未来に希望を持ちチェンジメーカーとなる(=社会をよりよく変えていく)青年を育むための、自由で解(ひら)かれた学校である。

1. 自分のペースで自分らしく学び、学ぶ楽しさを知ることから自分の中にある可能性を見つける。(学び)
2. 自分の将来に夢と希望を持って歩む進路を見つけ、目標に向かって進む力を身につける。(進路)
3. グローバルな視点に立って物事を考え、世界の平和を創り出す人材を育てる。(グローバル)
4. イエス・キリストの愛と希望の生き方に学び、一人ひとりの尊厳を認め、互いの存在を大切にし、信頼しあえる人間を育む。(自尊心)

2. 中期的目標(平成27~29年度)

1. 学びの基礎を身につける

(1) スクーリング内容の充実

・ここ数年、当校に入学する生徒層に変化が見られ、自学自習を推し進めるよりも、できるだけ学校に通うことを勧め、スクーリングの中でも知識習得はもちろんであるが、人間関係を育む取り組みを実施する。ホームルームを活用してのペアワークや、「産業社会と人間」において、将来の進路について考えながらも「なぜ、今、勉強が必要なのか?」についても伝える取り組みを充実させる。

・講師会において特に配慮の必要な生徒情報を共有し、スクーリングの進め方について、一人ひとりに寄り添いながら学習を進められるように働きかける。

・アクティブラーニングの導入に向けての基盤を確立する。

*生徒のアンケートにおけるスクーリングに関する満足度を平成27年度80%以上、平成29年度には、90%以上を目指す。また、総合学科の特色を活かし、生徒の興味を引き出しながら将来の夢の実現を目指す。総合選択科目に関する満足度を平成27年度80%以上、平成29年度には、85%以上を目指す。(※各年度の目標%は、肯定的評価の合計数とする。)

(2) 学力定着のサポート

・まずは、安心して学校に通える環境を作り、生徒一人ひとりの居場所となるように努める。その中で、一人ひとりにあった学びなおしができるようにサポートを充実させる。

・ICTを活用し、一人ひとりの学習習熟度を把握できるシステムを構築する。

*物理的な環境の充実からサポートできるように校内の施設や設備の満足度を平成27年度85%以上、平成29年度には、90%以上を目指す。また、教員が一人ひとりの声に耳を傾け、親身になって支援を行う。生徒並びに保護者の学習サポートに関する満足度を平成27年度85%以上、平成29年度には、90%以上を目指す。

2. 生徒一人ひとりに添った進路支援

(1) 個人の課題に対応するキャリア支援の充実

・進学、就職に関するガイダンスを定期的実施するとともに、「産業社会と人間」において、教員と生徒が仕事とは何かについて一緒になって考え、親身になって生徒一人ひとりに沿った進路を見つける支援を充実させる。

・多様化する進路選択について各大学、専門学校、企業からの情報を直接専門家から聞ける機会を提供するとともに、個別面談や校内掲示にて常に新しい情報を提供する。

*生徒のアンケートにおいて、教員が親身になって一人ひとりに対応している満足度を平成27年度90%以上、平成29年度以降も90%以上を保つ。(平成26年度、90%)

*生徒のアンケートにおける進路についての情報提供満足度を平成27年度90%以上、平成29年度には、95%以上を目指す。(平成26年度、86%)

(2) 自己実現可能な支援と環境の整備

・ボランティア活動を通して自分自身が活かされていることを実感し、将来の夢の実現に向けて積極的に取り組めるように支援する。また、企業でのインターンシップも充実させる。

*YMCAネットワークを活かしたボランティア活動情報を定期的に提供し、参加する機会を広げる。生徒の満足度を平成27年度75%以上、平成29年度には、80%以上を目指す

3. グローバルな視野を持つ人材の育成

(1) YMCAの特徴を活かした海外交流プログラムの充実

・YMCAのネットワークを通して海外の学生と交流する機会を提供し、海外の文化に興味を持ち、グローバルな視点に立って物事を考える機会を持つ。

*生徒におけるアンケートにおいて、海外の学生との交流プログラムイベントなどの機会提供の充実について平成27年度75%以上、平成29年度には、90%以上を目指す。

(2) グローバルコミュニケーション力を身につける

- ・総合選択科目における多文化共生系列他、スクーリングを通して世界中のどのような場面でも自分の考えを相手に伝え、相手の思いを受け止めるコミュニケーション力を身につける機会を提供する。また、YMC Aがこれまで開発してきた分野でのクラスを新設する。
- *生徒におけるアンケートにおいて、他の学校にない特色ある科目についての満足度を平成27年度75%以上、平成29年度には、90%以上を目指す。
- *平成27年度は準備の時とし、平成28年度からグローバルクラスを始める。
- *また、平成29年度より、週5日間通えるクラスとしてYチャレンジコースを新設する。

4. 生徒・教職員に寄り添う教育環境の整備

(1) 生徒一人ひとり関わる環境を整える

- ・祈りに始まり祈りに終わるように、常の相手のことを考え、関わりあえる環境を作っていく。教職員が、保護者との連携を密にし、生徒が学校生活を過ごしやすいように整える努力をする。また、特別活動への参加を促し、教職員が中間者となって友人関係が作れる環境を創り出していく。
- *生徒のアンケートにおけるいつでも相談できる場所や人が整っている環境への満足度を平成27年度80%以上、平成29年度には、90%以上を目指す。
- *生徒のアンケートにおける家庭や職場の協力が得られる満足度を平成27年度90%以上、平成29年度には、95%以上を目指す。(平成26年度、89%)
- *特別活動などへの参加満足度を平成27年度80%以上、平成29年度には、90%以上を目指す。(平成26年度、72%)

(2) ICT並びに情報提供環境整備と充実

- ・情報に関するスクーリングのほか、ICTを駆使した学習システムを導入し、生徒一人ひとりにとってわかりやすく、課題解決できる環境を整える。今まで以上にプロジェクターを活用し、視覚にも訴えた学習環境を整える。
- ・郵送による学校通信のみではなく、いつでもどこからでも見ることのできる情報提供の環境を整備する。
- *学校通信を生徒や保護者にとってよりわかりやすい内容に改訂し、学校が目指す教育理念や通信制における学習システムについて理解を深める。生徒のアンケートにおける理解状況を平成27年度90%以上、平成29年度には、95%以上を目指す。(平成26年度、89%) また、スクールモットー理解の浸透を平成27年度80%以上、平成29年度には、90%以上を目指す。

(3) 学校運営責任者の育成

- ・社会課題を分析することから、高校として取り組むべき課題を抽出し、解決に導くプロセスを提案実行する力を養う。
- ・教職員のチームをまとめ生徒や保護者を幸せに導くリーダーシップを養う。
- ・財務関係はもとより、学校運営を支える組織についても理解を深める。

【教職員自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

教職員自己評価の結果と分析〔平成29年8月実施分〕	学校評価委員会からの意見
<p>1. 学びの基礎を身につける</p> <p>学習習慣が定着するように、レポート内容について昨年度に引き続き修正を行ってきた。学習計画についても生徒の学力に応じて修正してきたが、問3にあるように肯定的評価が、平成27年度52.9%→平成28年度40.0%となった。これは、基礎学力が十分に身につけていない生徒の入学が増えているため、教職員として十分な対応がし切れていないと考えるものが増えたためであろう。事実、生徒側の満足度は、生徒のアンケート「レポートの難しさは適切だと思う。」平成26年度76.6%→平成27年度87.1%→平成28年度85.0%、「レポートはわかりやすく工夫されていると思う。」平成26年度72.9%→平成27年度83.0%→平成28年度86.3%と満足度は安定している。</p> <p>また、生徒支援として学び直しができるクラスを設定し、自己学習を進めながら、学習習慣の定着を図るようにした取り組みは、定着が見られている。生徒一人ひとりに沿った支援ができるように個別面談の強化とともに工夫と改善が進んでいる。問32 学習支援についての工夫・改善評価が、平成27年度58.8%→平成28年度75.0%と大きく満足度を伸ばしている。生徒のアンケートからも「教員は熱心に情熱をもって、授業に取り組んでいるように思う。」平成27年度86.3%と昨年に引き続き高い満足度を示している。</p> <p>今年度より、アクティブラーニングに関する教職員研修を実施し、教員力の向上に努めた。ホームルームの取り組みを見直し、ペアワークを取り入れ、生徒が発言しやすい環境を整える取り組みを実施している。</p>	<p>【第1回 4月27日(木)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度当初の研修においてスクールミッション（教育方針）について教職員全体で再確認する機会を持ったことで、教職員全体の意識が変わったように感じる。 ○ 特に、生徒層の変化から、これまでの自学自習に偏ったスクーリング指導ではなく、生徒一人ひとりに寄り添ったスクーリングの持ち方を工夫しなければならない。 ○ また、生徒一人ひとりにあった進路支援は、入学時のコースやクラス選択に大きく左右される。 ○ 新しい取り組みとしてのオプションクラスにおける教育内容の充実は、洗濯した生徒にとっては、人生に大きなインパクトを与えるものとして、カリキュラムの充実を図ってほしい。 ○ また、例年、レポートの見直しについて協議されているが、一人ひとりに寄り添う学びの工夫を考えると、学校として統一したレポートを使うことが必須なのであれば、学力に応じた補助教材を提供し、学力定着を図るようにしてはどうか。教員の手間は当たり前のことである。 ○ カウンセラーの配置や臨床心理士の常駐など、他校にはない支援が充実している。その事実を外部にも周知させ、いまだに学校への行きにくさを感じている多様な不登校生の受け皿になっていかななくてはならない。 ○ 今回は、アンケートの回収率が上がっている。昨年度の評価を受けて講座登録日や卒業式を利用して回収するように改善されたことが評価できる。
<p>2. 一人ひとりに添った進路を見つける</p> <p>総合学科の特色を活かし、将来の夢の実現に向けて、4つのオプションクラスを新設した。年間延べ100名の参加者があり、参加者からの満足度は高い。今後、一人ひとりにあった進路選択の一助となるように、さらに良質な教育内容となるよう教育カリキュラムの整備を行う。</p> <p>一方、問33 進路支援について生徒一人ひとりの興味・関心・適性に</p>	<p>【第2回 5月31日(水)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オプションクラスを選択する生徒像は、必ずしも将来その分野を目指すものでなくても構わない。あくまでも、総合学科としての特色と、YMC Aが持つ独自性を活用し、各分野での学び体験を通して、生徒一人ひとりの可能性を引き出すものにしてほしい。そのためにも、できるだけ多くの生徒が選択できるように工夫してほしい。

じた進路選択ができるような支援体制の充実評価が、平成26年度75.0%→平成27年度94.1%→平成28年度66.7%となった。原因としては、新しく取り組んだオプションクラス以外、新しい取り組みを導入できなかったことにあると考えられる。これは、生徒のアンケート「本校は進路支援について適切な相談や情報提供ができていると思う。」平成26年度86.0%→平成27年度92.3%→平成28年度83.8%と比較的高い満足度を示しているものの、前年度よりポイントを下げていることからわかる。

また、YMCAのネットワークを活用したボランティア活動を経験させることで、社会で活かされる実感を育み、自己実現に向けて支援している。問23ボランティア活動は活発に行われているかについての自己評価が、平成28年度70.0%、生徒のアンケート「ボランティア活動の情報も豊富で参加しやすいものであった。」満足度が、平成28年度66.9%と約7割の生徒が注目していることがわかる。今後も引き続きボランティア活動を推進し、生徒一人ひとりのキャリア支援につなげていく。

3. グローバルな視野を持つ人材の育成

グローバル社会の只中にいる私たちは、一人ひとりが、平和を創る人間でなくてはならない。例え言葉が通じなくとも、相手の思いを受け止め、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション力を身につけることが大切である。

昨年度に引き続き、YMCAのネットワークを活用した国際交流の機会（香港の高校生との交流プログラム、世界中のユースが集うグローバルユースカンファレンスなど）を持つことができた。特に、今年度は、香港中華YMCAに訪問する機会を持ち、現地の文化に直接触れることができた。しかし、問26他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れているについて、平成26年度75.0%→平成27年度76.5%→平成28年度70.0%と安定して7割以上の評価が得られているものの、受け入れではなかったため、教職員の評価は横ばいであった。

今後は、総合学科の特色を活かし、グローバルな視野を持つ人材の育成に力を注いでいく。

4. 生徒・教職員に寄り添う教育環境の整備

YMCAの使命（ミッション）、教育方針について再度確認する機会を生徒教職員と持ち、関わりあう学校づくりを推進した。

問1のスクールミッションの浸透については、平成26年度62.5%→平成27年度76.5%→平成28年度90.0%と、教職員の意識も高まっていることを示している。教職員が、今まで以上に生徒への関わりを大切にするようになったことは、問28の生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある点において平成26年度56.3%→平成27年度70.6%→平成28年度88.9%と学校全体での意識も高まっていることを示し、成果が表れている。保護者へのアンケート「学校は家庭と連携した生徒支援ができている。」満足度が、平成28年度82.5%と8割を超えた満足度を得ることができている。

生徒保護者への情報共有も郵送による学校通信のみではなく、SNS等を活用した情報提供に力を注ぎ、問10ホームページの活用状況及び問11保護者への情報公開において平成26年度43.8%→平成27年度82.4%→平成28年度90.0%と改善が見られた。これは、保護者へのアンケートにある「HPの情報は、本校を理解するうえで分かりやすい内容となっている。」の満足度が平成27年度に引き続き94.1%と非常に高い結果となっていることからみとれる。

教職員については、働き方改革（チームで取り組む）、アクティブラーニングを中心とした良質な教育の提供に関する研修を増やし実施した。しかし、十分な満足度は得られていない。このことは、教育方針の浸透からも考えられるとおり、自己に気付きより高い自己研鑽を求めている表れではないかと考えられる。

不登校や発達に課題を持った生徒が増えている今、一人ひとりの尊厳を認め、学びを大切に、関わる学校として、今後も教職員一同努力していく。

【第3回 6月26日(月)】

- 現在、生徒にとっては、多くの進路選択ができる状況にある。しかし、情報が多すぎるため、逆に、自分にあった進路選択ができるのか不安な状態にある生徒も多い。そのためにも、YMCAならではのネットワークを通してボランティアやインターンシップ体験ができる環境を作る必要がある。
- 専門家の進路アドバイザーを置くことも考える。
- 今年度より、年2回の講師会で共通の課題に対する研修会を実施していることは、大いに評価できる。特に、生徒支援アドバイザーによる生徒理解並びに各教科でのアクティブラーニング導入に関する研修は、大変重要である。全教員が、共通理解をするまでには時間がかかるであろうが、焦らず続けることで必ず成果が見られる。結果的には、教員の担任力が上がり、チーム力も向上する。生徒の幸せを願い、人を育てる現場であってほしい。

【第4回 7月24日(月)】

- 生徒理解には、ユニバーサルデザインの考え方は不可欠である。特に多様な不登校生（発達に課題のある生徒）には、平等の視点を一人ひとりに焦点を当てて考える必要がある。
- レポートやスクーリング中のアプローチも、一人ひとりへの配慮が必要である。教員間での情報を共有し、生徒にとって一番幸せな方法が対応できるように、保護者とも確認しながら学習支援を行う。

【第5回 8月31日(木)】

- 第1回目でも協議したが、回答数が上がったということは、それだけファンが増えたということである。良いことだけを答えるのではなく、期待している分、厳しい意見もあることを感謝して受け止めたい。
- アンケートからの学校に対する満足度は、一定の評価を得ている。今後、マイナス思考の点を以下にプラスにするかが課題である。
- ボランティア活動や地域との交流イベントなど、生徒自身が、活かされていることを実感できる体験の充実は、一定の評価があるが、もっとポイントを挙げる努力が必要である。プログラム内容は、素晴らしいので、参加者を増やすためにも情報発信と周知に力を注ぐ。
- 生徒や保護者が、情報を得るツールの中心は、学校からの郵送物「学校通信」となっている。SNSがこれだけ普及している今日、よりダイレクトに情報を伝えられる工夫が急務である。
- 8割以上の生徒が安心してスクーリングを受けられるようになっていくことは評価できる。ただし、残り2割は、安心してできていないということである。生徒はもちろんのこと、教職員間でのルール確認を充実させることで、生徒の安心感は増すであろう。
- また、今年度、学校が移転され、施設も変わり、目が届くようになった反面、ゆっくりと自分の空間を保つ居場所が減ったことも事実である。居場所確保にも配慮が必要である。

【第6回 9月27日(水)】

- 教員研修に対する概念を確認しておく必要がある。「今、なぜ、何のために、何を学ぶのか」を見える化しておくとう分かりやすい。年度の初めにスクールミッションの浸透を図り、成果が出ているので、今後が楽しみである。
- 公開授業など実践を通して研鑽できる環境を設定し、教科力を上げていく。一人に負荷を与えるのではなく、教科チームで取り組むように調整する。
- 学力に幅のある生徒に学習支援をする以上、在学期間でどこまでの力を身につけてもらうのか、目標を掲げ、取り組んでいく。また、学力だけではなく生きる力「人間力」を身につけてもらう。
- 今回のアンケートから、教科によっては、わかりづらい授業があるように感じる。十分に精査ができないので、今後、生徒によるスクーリング評価を実施していただきたい。その上で、再度教育方針の確認から、教科指導の在り方を各教員に指導する。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画	評価指標	自己評価
Ⅰ 学びの基礎を身につける	(1) スクーリングの進め方を工夫し、ICT活用を推進することで、わかりやすい学習進行とする。 (2) 一人ひとりにあった学び直しができる環境を充実させる。 (3) レポート内容を見直し、生徒の学習レベルに沿った内容に改編する。 (4) アクティブラーニングの導入の基盤を作る。	(ア) 報告中心のホームルーム活動から、考える機会、発言する機会を持つ内容に変えていった。(＊ペアワークの実施、話し合う環境づくり) (イ) 校内施設設備を再整備しICTを活用したYラーニング(PCやタブレットからもアクセスできる家庭でも自分の学力レベルにそった学び直しができるシステム)での学び直しを推進した。 (ウ) 「学び直し」講座の継続ができるシステムを作った。月・水・金、一日1~3回設定し、誰もが学び直しをしやすい環境設定をした。 (エ) 放課後には、レポート指導を行った。	(ア) 生徒のアンケートにおけるスクーリングに関する満足度を平成28年度80%以上(平成27年度83.6%) (イ) 生徒のアンケートにおける校内の施設や設備の満足度を平成28年度90%以上(平成27年度94.7%) (ウ) (エ)生徒並びに保護者の学習サポートに関するアンケートの満足度を平成28年度85%以上	(ア) 生徒の学校評価アンケート項目「スクーリングではわかりやすい学習指導をしていると思う。」の肯定的評価を基準とし、平成28年度実績は、83.8%であった。(○) (イ) 生徒の学校評価アンケート項目「校内の施設や設備は充実していると思う。」の肯定的評価を基準とし、平成28年度実績は、89.1%であった。(△) また、「学びなおしの講座や学び直しの取組があり、活用することができた。」平成28年度実績は、58.9%であった。 (ウ) (エ) 生徒の学校評価アンケート項目「教員は熱心に情熱を持って、授業に取り組んでいるように思う。」の肯定的評価を基準とし、平成28年度実績は、86.3%であった。(○) 保護者の学校評価アンケート項目「基礎的な学力を身につけさせる指導がなされているように思う。」の肯定的評価を基準とし、平成28年度実績は、80.4%であった。(平成27年度82.8%) (△) ※学び直しに関する教育内容及び環境の充実、また、多様な不登校生の受け皿の充実が課題である。
Ⅱ 一人ひとりに添った進路を見つける	(1) 進路・就職ガイダンスを定期的実施し、その後の個別面談を徹底する。 (2) 適切な進路支援情報を提供する。 (3) ボランティア活動に関する情報を積極的に提供し、参加をうながす。 (4) YMC Aの独自性と総合学科の特色を活かし、オプションクラス(グローバル、ウエルネス、アドバンスト、マイスペプラス)を新設し、進路支援の一助とした。	(ア) 進路・就職ガイダンスを3年次生用と1・2年生用に分けて実施した。 (イ) 保護者交流会の見直しを実施した。卒業生を招き材工当時の心境の変化を話してもらう機会を持った。 (ウ) SNSの活用(ホームページ、Facebookの他、LINE@の導入)とともに、学校通信を充実させ、進路支援情報をの共有に力を注いだ。 (エ) 職場見学などを積極的に取り入れ、生徒が進路を実感しやすい状況を作るようにした。 (オ) ボランティア活動に関する情報を年度初めにまとめて提供し、年間を通して参加する機会を増やした。	(ア) (イ)生徒のアンケートにおいて、教員が親身になって一人ひとりに対応している満足度を平成28年度90%以上(平成27年度、96.5%) (ウ) 生徒のアンケートにおける進路支援について適切な相談や情報提供ができていた点において平成28年度90%以上(平成27年度92.3%) (エ) (オ)生徒のアンケートにおいて学校よりYMC Aネットワークを活かしたボランティア活動情報が定期的に提供され、参加する機会を得た生徒の満足度を平成28年度75%以上、(平成27年度74.6%) また、保護者のアンケートによる肯定的評価が、平成27年度75%以上(平成27年度91.8%)	(ア) (イ)生徒の学校評価アンケート項目「本校は質問や相談に対して親身になって対応していると思う。」の肯定的評価は、平成28年度実績は、88.1%であった。(△) (ウ) 生徒の学校評価アンケート項目「本校は進路支援について適切な相談や情報提供ができていると思う。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、83.8%であった。(×) (エ) (オ) 生徒の学校評価アンケート項目「地域の人たちも一緒に参加する活動があり満足である。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、64.8%であった。(×) 保護者の学校評価アンケート項目「学校教育以外でも生徒が活動できる場が充実している。」の肯定的評価は、平成28年度実績は、84.3%であった。(○) ※学校通信他、情報提供を実施したが、多くは年度初めに配布したプリントに頼ることが多かった。今後は、新しい情報提供をタイムリーに提供する。

<p>3. グローバルな視野を持つ人材の育成</p>	<p>(1) YMCAのネットワークを最大限に活かし、海外交流をする機会を提供する。</p> <p>(2) 総合学科の特徴を活かした総合選択科目を実施する。</p>	<p>(ア) 香港の高校生との交流、グローバルユースカンファレンス開催、カナダ短期語学留学等、海外研修プログラムを実施した。</p> <p>(イ) YMCA英語幼稚園やアジア学院受け入れプログラムなどYMCAの資源を活かした世界を身近に感じることのできるボランティア活動を推進した。</p> <p>(ウ) ピンクシャツデー(いじめをなくす運動:カナダより発信)にかかわる機会を持った。</p> <p>(エ) オプションクラスの一つとしてグローバルクラスを新設し、より内容の濃い学習を提供した。</p>	<p>(ア) 生徒におけるアンケートにおいて、海外の学生との交流プログラムイベントなどの機会提供の充実について平成28年度75%以上(平成27年度74.4%)</p> <p>(イ)(ウ)(エ)生徒におけるアンケートにおいて、他の学校にない特色ある科目についての満足度を平成28年度80%以上</p>	<p>(ア) 生徒の学校評価アンケート項目「イベントなどを通して地域の方々と交流する機会は充実していると思う。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、59.9%であった。(×)</p> <p>(イ)(ウ)(エ)生徒の学校評価アンケート項目「他の学校にない特色ある科目についての満足している。」の肯定的評価は、平成28年度実績は、80.4%であった。(○)</p> <p>※今年度は、海外へ訪問する側であったため、昨年度よりも交流の機会が減少した。今後は、YMCA他部門にある留学生との交流、アジア学院訪問団との交流を積極的に実施する。また、SNSによる交流サイト作成も検討する。</p>
<p>4. 生徒・教職員に寄り添う教育環境の整備</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりに寄り添う体制づくりの強化に努める。</p> <p>(2) 特別活動を通して友達作りを促す。</p> <p>(3) 校内研修を強化し、再度学校の教育方針、生徒との関わり方(発達に課題を持った生徒との関係含む)について学びを深め、共通理解する。</p>	<p>(ア) 昨年度に引き続き転編入生の入学時に担任と面談を行い、顔が見える関係作りを徹底した。</p> <p>(イ) 生徒支援アドバイザー(原田先生)の支援のほか、カウンセリングルームの活用を充実させた。</p> <p>(ウ) 特別活動として、ハイキングとスポーツデーを各年間2回実施し、互いに交流できる機会を増やした。</p> <p>(エ) 学校全体でスクールミッションを再確認し、現在の生徒に合った関わり方について研修する機会を持った。</p>	<p>(ア) 生徒のアンケートにおけるいつでも相談できる場所や人が整っている環境への満足度を平成28年度80%以上。保護者のアンケートにおける家庭との連携の満足度を平成28年度80%以上(平成27年度、85.3%)</p> <p>(イ) 保護者のアンケートにおける生徒支援に対する満足度を平成28年度85%以上(平成27年度、95.1%)</p> <p>(ウ) 生徒のアンケートにおける特別活動などへの参加満足度を平成28年度80%以上(平成27年度、83.5%)</p> <p>(エ) 教職員自己評価のスクールミッションの浸透を平成28年度70%以上(平成27年度、76.5%)校内研修の充実について平成28年度70%以上(平成27年度、58.9%)</p>	<p>(ア) 生徒の学校評価アンケート項目「いつでも相談できる場所や人が整っている環境が整っていると思う。」の肯定的評価は、平成28年度実績は、85.0%であった。(○)</p> <p>保護者の学校評価アンケート項目「学校は家庭と連携した生徒支援ができていく。」の肯定的評価は、平成28年度実績は、82.5%であった。(○)</p> <p>(イ) 保護者の学校評価アンケート項目「教員のお子様への対応の仕方に満足している。」の肯定的評価は、平成28年度実績は、93.3%であった。(○)</p> <p>生徒の学校評価アンケート項目「保健室・カウンセリングルームがあったので、安心できた。」の肯定的評価は、平成28年度実績は、81.1%であった。</p> <p>(ウ) 生徒の学校評価アンケート項目「特別活動などの学校行事は生徒が参加しやすいものであると思う。」の肯定的評価は、平成28年度実績は、76.8%であった。(△)</p> <p>(エ) 教職員自己評価における項目「スクールミッションが教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。」の肯定的評価は、平成28年度実績90.0%であった。(○)</p> <p>「効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。」の肯定的評価は、平成28年度実績44.4%であった。(×)</p> <p>※スクールミッションの浸透により、教員一人ひとりの教育意識が向上している。今後は、更に担任力を上げるための内部研修と同時に、外部研修への派遣を促し、今まで以上に良質な教育環境を整える。</p>